

「救命救急、消火活動において最も必要なもの。それは、スピードです。」と話すのは、南島原消防署の板山良継消防署長です。

板山署長は、「例えば、心肺停止状態から蘇生のための処置が行われる時間で、蘇生する確率は大きく変わります（1分で90%、6分では40%）。消火活動においても同様で、いったん大きく燃え上がった火の手は、どんなに多くの消防車を投入しても、なかなか消せないものなのです」と初動の大切さを訴えます。

全てはその1秒のために



有家・西有家を背にする板山良継署長。庁舎屋上のさらに上、無線塔からは、有家の一部まで一望できます。

では、初動における1秒は、消防員だけが、作りだすべき、あるいは努力すべきものでしょうか。

板山署長は「実は、私たち署員よりも、現場に居合わせた皆さんの方が、できることは多いのです」と話します。

「初期消火の訓練を受けていけば、鎮火とまではいかずとも、被害拡大を防ぐことができます。また、救急救命講習を受けていたために、最悪の事態を免れたケースは数多くあります」

あなたにもできることがある

南島原消防署は、国道251号線に隣接。緊急時ならば、エンジンをかけて、1分後には、時速80kmで現地に向かうことが可能です。

また、庁舎の見取り図をみると、全ての部屋から、ほぼ直線で車庫に向かうことができることがわかります。

失われようとしている命。今燃え広がろうとしている炎。その現場に1分1秒でも早く駆けつけ、救い、あるいは鎮火すること。そのために「やるべきこと」が、新消防署には凝縮されているのです。

消防団としての活動も

消防署が、24時間私たちの安全を警戒していることに対して、有事のときのみ活動する「消防団」。現在市内に、1,310人（平成23年4月1日現在）の消防団員が、仕事をしながら、有事の消火作業や訓練など、私たちのための活動を続けています。

板山署長も、消防団なしに、消火活動は語れない、と言います。

「火災の第一線は消防団に支えられている、といっても過言ではありません。『地域を自分たちで守る』という精神に対し、心から尊敬しています。」

これから

新しくなった南島原消防署。ですが、それは、施設や装備が新しくなったに過ぎません。

これまで同様、広域消防本部、各分署や市、消防団、そして市民の皆さんとの綿密な連携があつて、これらの施設は生きてきます。

これからも、各関係機関、そしてあなたの協力を、よろしく願います。

消火器訓練 を行いませんか

南島原消防署
 ☎0957(82)1373

自治会や仲間、初期消火の訓練を受けてみませんか。連絡いただければ、消防署員がどこへでも伺います。

希望する場合は、まずはお電話をお願いします。



訓練塔

高さ15メートルに及ぶ訓練塔では、登坂訓練や降下訓練などを行うことができる。また、屋上の無線塔からは、南有馬町の原城付近から有家町の一部まで見渡すことができる。



立坑救助訓練施設

立坑救助訓練とは、狭い穴からの救出を想定した訓練のこと。専用の施設を備えることで、万一の際に、迅速に対応することができる。

日々、高いレベルの訓練を！

新しく整備されたさまざまな訓練施設



屋外訓練場

ドクターヘリなどの緊急着陸のためのヘリポートを兼ねている。十分な広さを備え、署員のみならず、市内の分署員、消防団員などとの合同での屋外訓練も行うことができるのも特徴。また、60トンの防火水槽を備え、放水訓練を行うことができる。



煙道訓練施設

煙道や、狭い横穴での消防・救助活動訓練を行う。

海沿いで埋立地、立地にちょっと不安。という声もありますが…

Q 新消防署は、海に近く、台風や高潮などがあつた場合、危険なのではないですか？また、埋立地ということですが、地震に対する対策は十分なのでしょうか？

A 消防署の場所の決定は、広域市町村圏組合で決定されたものです。

まず、同地は、1メートルをかさ上げし、標高7.1メートルに位置しています。これは、市内の消防分署の中で最も高い位置にあります。これは、平成20年の最高潮位である3メートルからさらに4メートル高いこと、防風林が植えられ、周囲に十分なスペースがあることから、庁舎が高潮などの被害を受けることは考えにくく考えています。

次に、同地は確かに埋立地ではありますが、検査の結果数メートル下に固い岩盤があることがわかっています。硬い岩盤に杭を深く打ち込んでいることから、耐震性は通常の施設の1.25倍、震度7の地震にも耐えうる構造になっているとのこと。

図のとおり、実際の1階床部分は標高7.1メートルよりもずいぶん高い。

広い訓練場は1メートルかさ上げされており、その下の空き地には防風林を植える予定。